

じんげん アジュール asile

秋冬号
2020
大谷大学広報誌

学びの場としてのアジュールへ

— コロナ禍における本学の現状と課題 —

「哲学カフェ」オンラインで開催

日常の中の疑問をテーマにして、異なる学部学科の学生が集まり議論し合う哲学カフェでは、オンラインで活動を継続しました。「オンラインでの生活」や「ネットの正義」などをテーマにしてZoomを使って議論し、noteアプリで作成した活動報告記事をTwitterで公開しました。



テーマ:「オンライン生活について」
5月14日(木)18時~

4年間の学びをサポートする学習支援施設

学習支援室 (LEARNING SQUARE)
前期はオンラインでアドバイザーによる個別指導を実施。学習面で困ったことがあれば、気軽に相談してください。

語学学習支援室 (GLOBAL SQUARE)
外国語学習や留学をサポート。学生スタッフがイベントを企画することも。後期は外国語勉強会の実施を予定しています。

文藝塾
「書く力」を養うための講義と演習を行う場。前期は学生有志が企画したWeb読書会を実施しました。

後期以降の予定は、ユニバを確認してください。

**学外での
学び**

コミュ・ラボ
(地域連携室)
の取り組みを紹介

**7月15日(水)・16日(木) 祇園祭ごみゼロ
大作戦2020に本学学生が参加**

新型コロナウイルスの影響による祇園祭の大幅な縮小にあわせて、ごみゼロ大作戦も活動内容を変更し、2日間にわたり鈴町のごみ拾い活動を行いました。参加人数も制限されるなかで、本学からは「人間学II-9」の受講者を中心に、有志25名が参加。延べ400名の市民ボランティアとともに清掃活動を行いました。



**今年も「まんまピーア!」発売開始!
志藤ゼミが茶葉を収穫**

志藤・野村ゼミ(社会学部コミュニティデザイン学科)は、京都市北区中川で「まんま茶葉」の収穫を行いました。日本古来のこの茶葉を活用して、今年も本学OBの松尾浩久氏が運営する「西陣麦酒」(運営:特定非営利活動法人HEROES)がクラフトビール「京都・中川まんまピーア!」を10月末より発売開始予定。収益は中川の学生の活動や、HEROESでの福祉事業に役立てられます。限定発売で、完売次第終了となります。



詳細はこちら



**赤澤ゼミによるラジオ番組
「大谷大学ハッピーアワー」の取り組み**

赤澤ゼミ(社会学部コミュニティデザイン学科)では、大学周辺のお店やイベント情報を、地域情報サイトやコミュニティラジオを使って発信するコミュニティメディアプロジェクトに取り組んでいます。4月以降、取材活動などができなくなりましたが、このうち、地域の人のつながりがづくりに貢献したいと考え、6月から活動を一部再開。Zoomを使って、地域の会社やお店がコロナ禍で、どのような影響を受けたのかを学生たちがインタビューし、毎週2回、ラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー!」でその模様をお伝えしました。コロナ禍でも、オンラインを活用しながら、子どもや障がい者の居場所づくりを続けるNPOや、これを機に社員の働き方を見直しに取り組む企業など、たくさんの前向きなお話を聞くことができ、学生、教員ともに大いに刺激を受けました。

また、ゼミでも、東北や北海道など各地で地域活性化に取り組む方にオンラインでゲスト出演していただくなど、工夫をこらして地域との関わりを続けています。



詳細はこちら



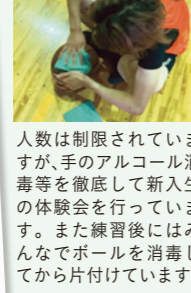
Pick Up! 谷大生 ~前期の課外活動~

バスケットボール部 (@otaidaigaku_)

Twitterで質問を受付
Twitterにある質問箱の機能を使って、クラブのことや大学生活のことなどについて新入生から質問を受け付ました。



練習の様子



人数は制限されていますが、手のアルコール消毒等を徹底して新入生の体験会を行っています。また練習後にはみんなでボールを消毒してから片付けています。

アメリカ民謡研究部 (#大谷大学アメ民)

instagramで楽器を紹介
アメリカ民謡の雰囲気や伝えられたらと思いい、私たちの演奏で使うさまざまな楽器の紹介を行いました。実際に演奏している動画を載せて、特徴などを説明しています。



練習の様子



歌を歌いながら演奏するので、マスクを着用し、十分な距離を保って練習を行っています。

後期からミニマイル・プラザにクラブ紹介コーナーを設置します!

**仏教教育センターって
どんなところ?**

大谷大学は仏教の教えを基盤とした大学です。人間としてどう生きるか、誰とも代わることのできない人生にどんな花を咲かせるのか。釈尊や親鸞の言葉をとらえて、生き方を学ぶ大学です。学部学科を超えて「人間学」を学ぶのも、そのためです。

授業を受けて湧き起こってきた疑問がある人、ゆっくり本を読みたい人、課題提出で困っている人、仏教について語りた人、どんな人でも来てもらえる場として仏教教育センターは用意されています。

前期の間は自習室としても開放していました。後期も学部や学科、学年を問わず利用できるよう、扉を開けて待っています。どうぞ気軽に足を運んでください。



仏教教育センター長 一楽 真

伝道掲示板「きょうのことば」の発信や、本学における御命日動行や報恩講などの宗教行事をはじめとして、仏教教育に関わるさまざまな事業を行っています。

**学内での
学び**



本学の対応と現状
「コロナ禍で4月からさまざまな対応が求められてきました。」
学生の生活状況については、学生支援課を中心に情報収集してきました。奨学金についての情報を早い段階でリリースしたこともあって、例年より多くの学生が申請してきています。
下宿してそのまま実家に帰れないというケースが多々あったので、ゼミが始まるまでの期間はとても不安だったと思います。特に1年生は入学式もままならず、人間関係を構築する前にこういった状態になってしまったので、とても不安だったのではないのでしょうか。一方で、実家に帰ってからも京都に出てこれないというケースもあります。ユニバやメールなどで状況を把握していきいかなければなりません。
教育面では、4月からオンライン授業となったとき、学生たちのPCやインターネット環境のことをとても心配しましたが、先生たちから学生にアンケートをとって状況を把握することができました。環境が整わない学生に対しては、5月25日から段階的に大学を開放して施設を使ってももらえるようにしました。安心して使ってもらえるように、飛沫防止のパーティションやアルコール消毒液の設置、マスク着用用の徹底、ソーシャルディスタンスを保つため、着席

不可の紙を貼るなど、感染防止対策を徹底しました。
入構制限期間中の図書館による郵送貸出は、4年生や大学院生からは喜んでもらえたようでした。本学の規模だからできるのではないのでしょうか。大きな大学では難しいかもしれないですね。
※学生向け情報提供システム「大谷大学ユニバーサルサポート」の通称。
「オンライン授業も初めての試みだったので、経験がない教員と学生がほとんどだったので、さまざまなソーシャル・ネットワーキングサービスを使いこなし、相互に関係を作り上げるのに苦労しました。たとえば、ユニバでは掲示板など情報発信の手段以外に授業資料の配布や課題提示などもできるのですが、これまでは対面でやっていたことなので、教員が使いたい方を覚えて、学生に手順を伝えていくところから始めました。Microsoft Teams等を使ったオンライン授業も同様です。本格始動するまでは1ヵ月かかりましたが、教員同士や学内のサポート体制が次第にできてきて、少しずつ慣れていくことができたと思います。
「段階的にゼミが再開されましたが、学生の反応はいかがでしたか?」
対面授業のほうが分かりやすい、という声は聞こえました。本来、対面授業では、先生は知らず知らずのうちに個々の学生に合わせて教え方を変えているかと思いますが、画面越しではその教育はできません。もちろん、オンライン授業の方が集中できるといった声もあり、一定の教育効果は期待できますが、大学における教育とはやはり人対人であるべきであり、他者の意見に耳を傾け、自己の中で考えをめぐらして切磋琢磨することと考えています。
「改めて考える大学の学び」
「大学とは本来どのような場所であったか考えさせられますね。」
「学ぶ」という言葉を辞書で引くと、「真似

る」という意味が出てきます。学ぶことは先生や友達を真似ることから自分自身を変えていくということ、それは難しいことではなく、今までの自然とやってきたことです。でも、それは画面越しにはできません。なかでも、大学というのは学問をする教育研究の場であり、同時に自分自身の問題を4年間の学びのなかで見つけ出していくところです。決して知識の教授だけではない。それは、ひとりり勉強するのは違って、仲間たちが集まって問題を共有、そして議論し合うのが、そもそもの大学の教育ということなんです。特に1年生はまだ何も分らない状態のまま、対面授業ではなくオンラインで講義を聞いていたのが、場合によっては高校と同じと思っていたのかもしれない。仲間を作ったり、自分とは全くタイプの異なるような人間に出会ったりする機会が失われていては、本学が目指している学びとは言えません。
「学生の拠り所となるような学び舎へ」
「今後の展望は?」
どうなるか先のことが読めない状況が続くので、気が抜けません。大学としては自治体のガイドラインや大学が独自に作成した行動指針※に則ってやっていくしかありません。
今は、後期になったら状況が落ち着いているという想定で、基本的に対面授業をすることを考えていますが、今の状況が続けば教室のキャパシティと受講者数を見極めて対面とオンライン授業の双方を展開していくしかありません。前期に培ったノウハウと、想定し得るさまざまな事例をシミュレートして、万全を期したいと思います。
本学は仏教精神に基づいて「人間教育」を行うことを建学の理念としています。それぞれの学部学科において、人と人の営みに関わるあらゆることを学ぶ場が大谷大学です。本学では、そうした人と人との関係、関わり合いを大切にしています。「人間」のことを前提とする学びのかたちがあり、オンライン授業で代替できるはずが



教育・学生支援担当副学長
平野 寿則 Hirano Toshinori
文学部歴史学科教授
専門分野/日本近世史・仏教史



↑飛沫防止のパーティションを設置した図書館カウンター



講義教室を利用した自習室(学内Wi-Fiに接続可能) ↓



←北・正門にカードリーダーを設置し、入構時間を記録

※本学の行動指針



りません。新しいかたちというよりは、今までやってきたことの意義を今まさにあらためて問いながら、学生が安心して通える大学にしていきたいと思っています。
大学は今後もさまざまな対策を継続していきます。同窓会や教育後援会からは、学生生活支援として補助をいただき、朝食を100円、ランチと井を200円で提供できることになりました。学生の皆さんには、本学に進学したい思いを新たに、後期からの学生生活をスタートさせることを期待しています。

大谷大学・大谷大学短期大学部 財務概況

2019年度決算

2019年度決算は、公認会計士および監事の監査を経て、2020年5月25日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会において決定されました。

本学の会計は、公認会計士による監査を定期的に受けて処理しています。

また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年、決算決定後、文部科学大臣に届け出ています。

2020年度予算

2020年度予算は、2020年3月24日開催の学校法人真宗大谷学園理事会において当初予算が決定され、本年度の在学生数が増加したため、7月30日に開催された理事会において修正予算が決定されました。

本年度は、学修支援事業として、開設7年目を迎えた学習支援室や文藝塾運営のための費用を計上しています。また、地域連携室「コミュニティラボ」を中心に、より一層の学修支援の充実と大学の地域連携推進を図るための費用を計上しています。

資金収支計算書

資金収支計算書は、教育研究等の諸活動に対応する資金の収入と支出のほか、当該年度内において現実に収納し、また支払った資金の収入と支出について、その顛末を明らかにするものです。

資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金等が含まれます。

資金支出は、教職員の人件費や学生の教育研究および学生生活に関わる教育研究経費のほか、学生募集・広報等の管理経費と、施設や設備関係支出があります。

借入等利息支出 3,083,100
借入金等返済支出 211,100,000
施設関係支出 494,748,237
設備関係支出 70,137,358
資産運用支出 600,000,000
その他の支出 45,553,454
資金支出調整勘定 △ 257,137,659
翌年度繰越支払資金 4,423,181,377
支出の部合計 9,685,106,999

ります。国際化の推進として、語学学習支援室(GLOBAL SQUARE)では、学生たちが日常的に国際的視野を身につける環境を整えます。

就職支援では、低学年次からのキャリア形成支援として自己理解促進のためのアセスメント(GPS-Academic)を実施します。早期化する就職活動のスケジュールに対応するべく就職支援体制を整備します。

また、新型コロナウイルスへの対応として、博綜館の無線LANの整備、各教室の教卓や学内食堂への遮断板設置等、教育環境を維持しつつ感染防止に必要な措置を講じるための費用を計上します。

本年度も本学の教育研究の一層の充実を図るために予算を執行してまいります。

人情情報

依願退職

【教育職員】
裴 始美 (任期制助教/文学部)
2020年6月30日付

新規採用

【教育職員】
小野木 聡
(任期制助教/文学部)
2020年9月1日付

執行部の交代

【企画・入試部事務部長】
藤谷 徳孝
【総務部事務部長】
中島 弘喜 (再任)
【学生支援部事務部長】
角山 佳史 (再任)
【教育研究支援部事務部長】
山内 美智

●2019年度資金収支計算書(2019年4月1日~2020年3月31日) (単位/円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,601,677,770	人件費支出	2,650,398,687
手数料収入	150,211,110	教育研究経費支出	923,276,005
寄付金収入	191,437,922	管理経費支出	508,406,440
補助金収入	527,014,533	借入金等利息支出	3,083,100
国庫補助金収入	524,821,871	分担金等支出	12,360,000
地方公共団体補助金収入	2,192,662	借入金等返済支出	211,100,000
付随事業・収益事業収入	33,571,351	施設関係支出	494,748,237
受取利息・配当金収入	72,664,219	設備関係支出	70,137,358
雑収入	172,704,389	資産運用支出	600,000,000
前受金収入	623,495,800	その他の支出	45,553,454
その他の収入	868,180,222		
資金収入調整勘定	△ 790,687,400	資金支出調整勘定	△ 257,137,659
前年度繰越支払資金	4,234,837,083	翌年度繰越支払資金	4,423,181,377
収入の部合計	9,685,106,999	支出の部合計	9,685,106,999

●2019年度事業活動収支計算書(2019年4月1日~2020年3月31日) (単位/円)

収入の部		支出の部			
科目	金額	科目	金額		
学生生徒等納付金	3,601,677,770	学生生徒等納付金	3,601,677,770		
手数料	150,211,110	手数料	150,211,110		
寄付金	166,878,924	寄付金	166,878,924		
経常費等補助金	423,359,868	経常費等補助金	423,359,868		
付随事業収入	33,571,351	付随事業収入	33,571,351		
雑収入	194,353,163	雑収入	194,353,163		
教育活動収入計	4,570,052,186	教育活動収入計	4,570,052,186		
人件費	2,662,763,159	人件費	2,662,763,159		
教育研究経費	1,429,196,745	教育研究経費	1,429,196,745		
管理経費	546,454,878	管理経費	546,454,878		
徴収不能額等	0	徴収不能額等	0		
教育活動支出計	4,638,414,782	教育活動支出計	4,638,414,782		
教育活動収支差額	△ 68,362,596	教育活動収支差額	△ 68,362,596		
事業活動収入の部	受取利息・配当金	69,596,956	事業活動収入の部	受取利息・配当金	69,596,956
事業活動支出の部	教育活動外収入計	69,596,956	事業活動支出の部	教育活動外収入計	69,596,956
教育活動外収入	借入金等利息	3,083,100	教育活動外支出計	借入金等利息	3,083,100
教育活動外支出計	教育活動外支出計	3,083,100	教育活動外収支差額	教育活動外収支差額	66,513,856
教育活動外収支差額	66,513,856	教育活動外収支差額	66,513,856		
経常収支差額	△ 1,848,740	経常収支差額	△ 1,848,740		
事業活動収入の部	その他の特別収入	135,538,116	事業活動収入の部	特別収入計	135,538,116
事業活動支出の部	特別収入計	135,538,116	事業活動支出の部	分担金等	12,360,000
特別収入	資産処分差額	3,135,323	特別支出計	特別支出計	15,495,323
特別収入差額	特別支出計	15,495,323	特別収入差額	特別収入差額	120,042,793
基本金組入前当年度収支差額	118,194,053	基本金組入前当年度収支差額	118,194,053		
基本金組入額合計	△ 639,245,646	基本金組入額合計	△ 639,245,646		
当年度収支差額	△ 521,051,593	当年度収支差額	△ 521,051,593		
前年度繰越収支差額	597,284,676	前年度繰越収支差額	597,284,676		
基本金取崩額	0	基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	76,233,083	翌年度繰越収支差額	76,233,083		

(参考)

事業活動収入計	4,775,187,258
事業活動支出計	4,656,993,205

大谷大学・大谷大学短期大学部 2019年度事業報告

教育に関する事業

仏教教育センター 人間学I担当者会議の開催(「きょうのこぼ」事業の推進) 新入生本山参拝時におけるセンター長講話の実施(御命日動行における講話者の人選/晨朝勤行 大学報恩講の勤修等)

学習支援室 来談者数 延べ2,691名。学習支援アドバイザーによる、基礎英語・日本語の読み書きを中心とした個別指導/学習支援アドバイザーが担当する授業科目(英語・日本語表現)と連携等

教職支援センター (第4学年)京都大 阪滋養を中心として教員採用試験直前講座等を実施(第3学年以下)論文、面接対策のセミナー、履歴記入説明会を実施(教員免許更新講習)本学と地方10都市で開講。受講者は、延べ2,883名(実人数1,252名)。地域開講の講習の一部で教員講習開設事業費等補助金を獲得

地域連携室 (祇園祭ごみゼロ大作戦) 112名の学生及び教職員が参加(中川学区の暮らし再発見プロジェクト)中川社会福祉協議会と学生グループが連携して推進(北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業)京都市「学まち連携 学促進事業」の事業期間最終年度となる今年度も北大路のコミュニティ情報を収集して活動

語学学習支援室 外国語勉強会(英語/仏語/独語/韓国語/朝鮮語/中国語)の実施/留学生アシスタント在室時間の設定/ドイツと中国のカフェ企画の開催

図書館(総合研究室) 学生向けに学生選書プロジェクト、ゼミクラス単位での書庫ツアー、利用アンケート、投書制度(館長直々)など、総合研究室と共同で実施

学生支援に関する事業

奨学金制度の充実 (大学院育英奨学金)他大学院の奨学金制度を情報収集し、成績基準や選考基準を検討の上、出願条件を見直し(国の修学支援新制度(2020年度)機能要件の確認申請を行い、要件確認校として認定)

キャリア支援 (第1学年対象)「自己発見診断II」実施。結果は履歴書作成のための「自己分析」に活用(全学年講習案内「キャリア支援案内」配布募集、実施)

研究に関する事業 真宗総合研究所 特定研究(1件)・指定研究(5件)・研究所直轄プロジェクト(2件)・東方仏教徒協会(EBS)・一般研究科 学研究費助成事業採択研究等を含め、計41件を推進。「仏教を軸とする国際的研究拠点の形成と(人間学)の推進」も本研究所を主体として事業を推進 ※文部科学省平成29年度私立大学研究プランディング事業に選定

社会への開放

生涯学習講座 (前期 開放セミナー1講座/紫明講座4講座/博物館セミナー1講座/後期 開放セミナー2講座/紫明講座4講座/学外団体・近鉄文化サロンとの共催講座)1講座提供/大学コンソーシアム京都「京カレッジ大学リレー講座」京都アスニーへ各1講座提供

博物館 企画展計4回(秋季は実習生展3班)併催実施と特別展1回を実施。開館日数148日、入館者数8,457名

→ 詳しい情報は…大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/05>

教育後援会だより

「地区保護者懇談会開催について」

「地区保護者懇談会とは、教育後援会役員ならびに大谷大学長・学生支援部の職員が当該地域に赴き、大学の現状をご報告し、また当日は学生の成績表を配布し、修学状況等についての個別相談に応じます。今年度後期は、左記のとおり開催予定です。新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により予定が変更となる場合がありますので、予めご了承ください。

九州地区保護者懇談会 ※

福岡会場(福岡市)	2020年12月5日(土)
<大谷大学フェア(九州)同時開催>	
鹿児島会場(鹿児島市)	2020年12月6日(日)
北陸地区保護者懇談会 ※	
石川会場(金沢市)	2020年12月13日(日)

※…該当地区に在住の保証人へ案内。大谷大学フェアでは、公開講演会、進学相談会を開催。
・会場については、ホームページまたは案内状をご確認ください。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う食生活の緊急支援策!

教育後援会では、新型コロナウイルスの影響を受けている学生への緊急支援として、後期授業期間中、昼食を200円(通常450円)で提供いたします。また、9月の授業開始時と1月の後期試験期間中には、生活リズムを整え、バランスの取れた食生活を心がけてもらうために「100円朝食」も実施する予定です。実施する予定は、8時15分から9時45分までとなっています。保護者の方から学生に是非利用を勧めてください。



<メニュー例(200円昼食)>

—<2020年度 実施時期>—
100円朝食:4月(New! 新学期)、7月(試験期間中)、9月(授業開始時)、1月(試験期間中)
※4月、7月は、新型コロナウイルスの影響により中止
200円昼食:9月~1月(New! 後期)

教育後援会

大谷大学教育後援会は、全在学生の保証人が会員となる組織され、大谷大学の教育・研究の発展と、学生生活環境の整備・改善に支援を行っています。また、会員相互ならびに会員と大学との交流を深めることも目的に、各種の活動を行っています。なお、毎年、役員会・評議員会を開催し、さまざまな事業を企画・推進しています。

→ 詳しい情報は…大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/kouyuu>

教育振興資金(募金)について

2020年2月1日から2020年6月30日までの間、教育振興資金局へご寄付いただいた方々のご芳名は以下のとおりです。このたびは、募金活動にご協力いただき、ありがとうございました。ご寄付いただきました資金は、教育研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。今後も引き続き、募金のお申し込みを受け付けておりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

税法上の優遇措置について

本学は文部科学大臣から特定公益増進法人の証明所得控除制度ならびに税額控除にかからず証明所得控除制度を受けております。寄付者(個人)の選択により、どちらか一方の税法上の優遇措置を受けることができます。確定申告の際、領収書に沿って申告してください。

教育振興資金寄付者 (敬称略)

【個人】		
相場 久男 (群馬県)	杉浦 圭 (愛知県)	本多 佐保美 (千葉県)
青藤 忍 (愛知県)	辻井 栄作 (滋賀県)	本多 益 (三重県)
浅田 純 (長崎県)	筒井 浩也 (滋賀県)	三根生 秀喜 (愛媛県)
大須賀 光俊 (静岡県)	徳山 隆秀 (新潟県)	村林 勉 (栃木県)
大森 昌光 (秋田県)	中条 伸介 (兵庫県)	安田 智之 (京都府)
門脇 道晴 (鳥根県)	中田 康成 (山梨県)	匿名19件
小谷 延人 (京都府)	中原 浩治 (兵庫県)	
兒玉 康昭 (広島県)	西野 三賢子 (兵庫県)	
坂元 徹敏 (北海道)	西本 学 (和歌山県)	
澤柳 哲人 (静岡県)	長谷川 誠 (愛知県)	
末吉 満法 (鹿児島県)	菱田 隆 (大阪府)	

【法人・団体】

有限会社 石間企画事務所	代表取締役 石間 裕 (東京都)
キノビクス株式会社	代表取締役 齋藤 隆夫 (滋賀県)
1983年入寮貫線学寮第4期生同期会	(京都府)
同窓会岩手支部	(岩手県)
真宗大谷派 江善寺	(熊本県)
匿名3件	

◆件数 54件 ◆寄付金総額 10,762,000円

お問い合わせ先 教育振興資金事務局 (大谷大学 総務部校友センター内) TEL : 075-411-8124 FAX : 075-411-8157 E-mail : kouyu@sec.otani.ac.jp

→ 詳しい情報は…大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/04>

子どもと遊び

「心が折れるより骨が折れた方がマシだ」イギリスの造園家であり、冒険遊び場の普及に尽力した世界幼児教育・保育機構(OMED)初代会長マージョリー・アレンの名言である。もちろん、骨が折れることも痛くてつらいだろう。だが、子どもたちにとって、心躍る活動を制御されることは、成長を否定されることに等しい。そして、また、骨折の治療より、傷ついた心の手当てをする方が遥かに困難である。

乳幼児期の子どもたちにとって、生活＝遊びであるといっても過言ではない。遊びは発達の源泉であり、学童期になっても遊びをとおして多くの力や技を身につけていく。しかし、そんな遊びの価値や重要性を常に意識しているおとなは少ない。

社会に一大事が起これば、子どもの遊び環境の確保は後回しになる。もちろん、ライフラインが途絶え、衣食住の保持もままならないなかで、遊びの必要性を説くことは難しい。だが、せめて最低限の生活に戻った時には、「子どもは遊んでいるか? 遊べているか?」といった想いを馳

せることのできるおとなが地域に必ずいてほしいと希う。

人類が危機に陥っていても、季節は巡ってくる。自粛期間といわれた2020年5月、まさに外遊び日和の新緑の眩しい日に、散歩のふりをして京都市内のいくつかの大型公園を見て歩いた。予想していたよりも、たくさんの子どもの姿を見ることができた。だが、ほとんどの子どもが保護者に連れられて来ていた。親子団欒は決して悪いことではない。しかし、小学校3年生だという男の子が小さな声で教えてくれた。「親がついていないと学校の先生に怒られるねん。っていうか…外で遊んでたらあかんねん。」

子どもが遊ぶことに罪悪感をもたねばならなかったり、子どもの遊びを制限しなければならぬことも、いわゆる「コロナ禍」のひとつなのかもしれない。次世代の育ちを考えたとき、その代償の大きさを危惧している。



教育学部 教育学科
教授
川北 典子
専門分野/児童文化学・保育学

時代を照らす仏教のことば

てんどう ぜんが
顛倒の善果、

よく梵行を壊す。

親鸞「教行信証」行巻「所引(真宗聖典168頁)

編集後記

自然災害が起こったときと同様、緊急事態宣言後に頭に浮んだのは家族とともに友人のことでした。大学卒業後、就職などで地元に戻ったりと遠くにいる友人たちとも、「困ったことはないか」「うちにはマスクが多めにあります送ろうか」と連絡を取り合いました。卒業後も助け合える友人と出会える大学という場が、いちはやく再開できるよう、本学もさまざまな対策、対応を考えていきます。